

下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2018. 7. 17

下水道機構の『新技術情報』 第339号

(公財) 日本下水道新技術機構 <https://www.jiwet.or.jp/>

。○。○。○。

平成30年7月豪雨により7/16現在、211名の方がお亡くなりになったとのことです。犠牲者の方のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された皆様へお見舞い申し上げます。また猛烈な暑さの中で復旧作業をされている皆様大変お疲れ様です。どうぞお体にお気をつけください。被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第339号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

・7月の技術サロンは、東京都 下水道局 計画調整部 技術開発課長 青山繁氏をお迎えして開催しました

・7/24(火)~27(金)下水道展'18北九州へ出展します！

■機構の動き

・今週は、7/17(火)に第1審査証明委員会、水処理・資源化技術評価共同研究委員会を、7/17(火)-18(水)に雨水対策共同研究委員会を、7/19(木)に第4審査証明委員会を、7/20(金)に管路技術共同研究委員会を開催します

■Tea Break

・最果ての地を往く(研究第二部 ペンネーム (元) 淡海帆走人 さんからの投稿です)

■まる子のゆいまーる

・本日のゆいまーるはお休みします m()m

■国からの情報

・7/13付下水道ホットインフォメーション

。○。○。○。

インフォメーション (最新の話題です)

●7/24(火)～27(金)下水道展'18北九州へ出展します！

『技術の橋わたし』～人・技術・情報をつなぐ“かけはし”に！～
をテーマに今年も下水道展へ出展します！

下水道機構は「技術の橋わたし」をスローガンに産学官の知識と経験を結集して、新技術をはじめとする技術の調査・研究・開発・評価を行い、実用可能な技術として普及促進させることに取り組んでいます。

【研究開発】

下水道展では、「健全化・老朽化対策」、「浸水対策」、「地震対策」、「低炭素下水道システム・創エネ・再生可能エネルギー」「地域バイオマス」など下水道事業における課題の解消に向けた様々な研究成果をパネル、リーフレットや映像を用いて、わかりやすくご紹介します。

また7月27日(金)10:00より、併催企画として【セミナー】「下水処理場におけるエネルギー自立化を目指して」を主催します。膨大な電力を消費している処理場において、省・創エネ技術の導入や未利用資源・エネルギーの活用等によるエネルギー自立化を目指す取り組みについて、地方公共団体、民間事業者の皆様の参考となる様々な知見を発信します。

※【セミナー】「下水処理場におけるエネルギー自立化を目指して」のお申し込みはこちらから！→ <https://www.jiwet.or.jp/trainings/symposium>

【技術審査】

民間で開発された技術に対して、技術的な審査を行う審査証明についても、平成29年度に審査証明を交付した5つの新技術を含む42技術を、リーフレットやパンフレットなどによりご紹介します。また7月25日(水)13:25より、新館レストスペースBの出展者プレゼンテーション会場において審査証明事業の概要と平成29年度新技術の紹介を行います。これらのほかにも、広く下水道技術についてのご相談もお受けいたしますので、お気軽にお立ち寄りください！

日 時：平成30年7月24日(火)～27日(金) 10:00～17:00

※ただし、初日開館10:30 最終日閉館16:00

場 所：西日総合展示場[福岡県北九州市]

中展示場 パブリックゾーン 小間番号 中-410

※下水道展公式ホームページ → <http://www.gesuidouten.jp/>

●7月の技術サロンは、東京都 下水道局 計画調整部 技術開発課長 青山繁氏をお迎えして開催しました。

今回のテーマは「東京都における技術開発の取組～未来(あす)の暮らしと環境を育む下水道技術の導入に向けて～」でした。

青山課長は、1983年に東京都に入都されました。財務局、建設局を経て、1995年に下

水道局に配属となり、管路設計や事業計画等に従事されました。その後、2010年に課長に昇任され、八丈支庁土木課長として島の道路、砂防ダム、公園等の建設管理に従事された後、2012年以降、下水道局第一基幹施設再構築事務所工事第一課長などを歴任され、2017年より現職の技術開発課長としてご活躍されています。

今回のご講演内容は、東京都下水道局における技術開発の方針、技術開発の流れとこれまでの成果、技術開発の手続きなどについてでした。

下水道局では、2016年2月に“経営計画2016”同年12月に“技術開発推進計画2016”を策定し、技術開発に関する方針を明確にしてきました。そしてそれらを受けて、2018年3月には“技術開発の手引き”を改定しました。

技術開発は、開発のテーマ設定（P）、固有研究・共同研究等（D）、技術評価（C）、情報発信と改善（A）のPDCAサイクルを回し進めているようですが、これまでの、じっくり正確さを求めた“ウォーターフォール型”から、これからはまず試してみるスピード感のある“アジャイル型”の導入も検討していくとのことです。

技術開発の手続きでは、まず“技術開発の手引き”の改定概要、改定の目的と手引きの範囲、技術開発手法の選定、概要の説明があり、“公募型共同研究”“ノウハウ+フィールド提供型共同研究”“簡易提供型共同研究”“新工法、新材料及び新機器の評価”それぞれの技術開発手法の概要や手続きなどについて説明がありました。

日本を代表する先進都市における技術開発の動向で、下水道局では、技術開発にあたり、どのような技術が必要か職員にヒアリングを実施したとのことで、まさに技術開発課だけでなく局内職員で技術開発に取り組んでいる仕組みはとても参考となり興味深いご講演でした。今回も早々に定員に達し、多くの方々にご参加していただき、大変盛況のうちに閉会となりました。

さて、8月のサロンはお休みです。次回の技術サロンは9月13日（木）16:00から17:00での開催となります。講師及び講演テーマにつきましては、決定し次第、ホームページにてお知らせ致します。

多数のご参加をお待ちしております！

。○。

機構の動き（機構の行事予定です）

。○。

●行 事：平成30年度第1回第1審査証明委員会

日 時：平成30年7月17日（火） 10:30～17:30

場 所：機構8階 特別会議室

案 件：平成30年度 建設技術審査証明（下水道技術）の各依頼技術の審議

●行 事：平成30年度第1回水処理・資源化技術評価共同研究委員会

日 時：平成30年7月17日（火） 14:00～17:30

場 所：機構8階 中会議室

案 件：(1) 低圧損型メンブレン式散気装置の導入マニュアル作成に関する共同研究

(2) ゼロ・エミッション型下水処理場の可能性調査研究に関する共同研究

●行 事：平成 30 年度第 1 回雨水対策共同研究委員会

日 時：平成 30 年 7 月 17 日(火) 15:00~17:00、18 日(水) 10:00~12:00

場 所：兵庫県篠山市

案 件：

- (1)効率的・効果的な浸水対策に資するポンプゲートに関する共同研究（継続）
- (2)雨水管理支援ツール（アラート配信）に関する共同研究（継続）
- (3)降雨情報と実測水位に基づく管きょ内水位把握システムに関する共同

●行 事：平成 30 年度第 1 回第 4 審査証明委員会

日 時：平成 30 年 7 月 19 日(木) 10:45~17:30

場 所：機構 8 階 特別会議室

案 件：平成 30 年度 建設技術審査証明（下水道技術）の各依頼技術の審議

●行 事：平成 30 年度第 1 回管路技術共同研究委員会

日 時：平成 30 年 7 月 20 日(金)15:00~17:00

場 所：機構 8 階 特別会議室

案 件：(1)自立管の製管工法（ら旋巻管）に関する共同研究（継続）

。○。

Tea Break （機構職員の感じるまま）

。○。

●最果ての地を往く(研究第二部 ペンネーム (元) 淡海帆走人 さんからの投稿です)

少し早めの夏休みをとり、北海道を旅することにした。機構に出向してから仕事では数回訪れているが、プライベートではちょうど 6 年ぶりである。朝から蒸し暑い東京を発ち、新千歳空港へ。しかし、先日西日本を襲った梅雨前線が北日本にものびており、かなりの雨である。支笏湖温泉で日々の疲れを癒そうと考えていたが、途中の道路も通行止め。雨雲の動きを睨みつつ、回れ右して襟裳岬へ。道中もかなりの雨であったが、岬に到着する頃には傘は不要なほどに。いや、そもそも襟裳岬で傘をさそうなどと考えるはいけない。その日の風速は 15~18m/s。風速 10m/s 以上の日が年間で 290 日以上あるそう。数時間前まで纏わりつくような空気に辟易としていたが、一転体感気温は氷点下である。風邪をひく訳にはいかないので、足早に「風の館」へ。種々の展示物の先にはホールがあり、望遠鏡が設置されている。覗くと、岬の先の岩場でアザラシが 10 頭近く休んでいるのが見えた。ゼニガタアザラシというそう。定置網の魚が食べられるなど漁業被害もあるようだが、地元では共生を図れるように色々工夫しているとのこと。

さて、今回の旅の本当の目的地は日本最北の離島、礼文島である。同じ道を通るのはあまり好きではないので、帯広方面へ北上。帯広、富良野を經由し旭川で一泊。翌日、日本海を目指し、苫前からは海沿いの道へ。前日までの悪天候が嘘のように空は快晴。地平線まで続く道、途中から左手に利尻富士を望みながら快走し、稚内で一泊。移動距離がおかしいのは、私がただのドライブ好きだからなので気にしないでほしい。

翌日、稚内からフェリーで約 2 時間、ようやく礼文島へ。別名「花の浮島」だ。亜寒帯湿潤気候に属しており、海拔 0 メートル地帯から 200 種類以上の高山植物が咲き乱れる。

森林限界も近く、空、海、高山植物が眼前に広がる丘の光景は筆舌に尽くしがたい。また、島の北西部にある「澄海岬（すかいみさき）」は荒波の日本海に面した岬かと思いきや、まるで南国のビーチのような情景である。もちろん海の幸も忘れてはならない。ウニ、イクラ、ボタンエビ、礼文昆布の出汁など、多少の観光地価格も気にならない絶品である。

関東地方は史上最速の梅雨明けで、連日猛暑が続くが、気持ちだけでもクールにこの夏を乗り切りたいものである。

。○○。

まる子のゆいまーる （皆様との交流の場です）

。○○。

●本日のゆいまーるはお休みします m()m

!(^^)!皆さまからの情報提供をお待ちしております(^^♪

提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則 400 字以内。写真等は A 4 版にして原則 2 ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。

=====

下水道ホットインフォメーション（2018.7.13 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部下水道事業課企画専門官 堂蘭洋昭

=====

平成 30 年 7 月豪雨と命名された今回の大雨。甚大な被害が発生しました。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また一刻も早い被災地の復旧を心からお祈り申し上げます。各地で内水被害も多数発生、さらに下水道施設も多くの箇所被災しました。現在も多くの方が復旧に向け作業に携わっています。連日の炎天下の中、大変な作業と思いますが、体調に十分気をつけていただきたいと思います。

★★★★★ 今週のヘッドライン ☆☆☆☆☆

=====

○AWaP 設立記念シンポジウムの開催（下水道企画課）

国土交通省と環境省は、アジア各国・国際機関が参加する「アジア汚水管理パートナ

ーシップ（AWaP）」を設立しました。AWaPは、今月開催予定の「下水道展 in 北九州市」にあわせ設立記念シンポジウムを開催いたします。シンポジウムは、下水道に興味のある方なら誰でも参加できますので、ご参加ください。

<シンポジウム概要>

- ・日時：7月25日（水）13：00～15：00
- ・会場：北九州国際会議場（福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目8-1）
- ・主催：AWaP 事務局（国土交通省、環境省）
- ・参加国・機関：日本、カンボジア、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム

WHO、UNESCAP、ADB、JICA、JS ほか

国交省のプレスリリースはこちら

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000379.html

参加申込みはこちら

<http://www.mri.co.jp/kitakyushu/>

○下水道展'18 北九州 開催迫る！（〔公社〕日本下水道協会）

公式ホームページ

<http://www.gesuidouten.jp/>

会期：7月24日（火）～27日（金）

10:00～17:00（但し、初日は10：30～17：00、最終日は10：00～16：00）

会場：北九州市・西日本総合展示場

・今年下水道展では、北九州市をはじめとした九州地方の16自治体による「オール九州・下水道コーナー」を設置。下水道の役割や可能性を、体験型のアトラクションや展示を通してわかりやすく紹介します。

<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/dayori/180615/special/special.html>

・「下水道展ガイドブック電子版」を大幅にリニューアル。

興味をひくブースを会場マップ上に一覧表示することができるようになりました。

<https://guidebook.gesuidouten.jp/top/index/>

・日本で初めて、展示会場全体を丸ごとインターネット上で再現する「VR 下水道展」を、実際の展示会の開始と同時に実施します。

<https://guidebook.gesuidouten.jp/vrsetumei/indexJP.html>

これまでにない様々な工夫を凝らし、関係者一同、多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

OGJ Journal Vol.17「下水道展特集」を発刊しました！（GJリンク事務局）

GJ Journal Vol.17「下水道展特集」発刊のお知らせです。

URL : <http://www.gk-p.jp/gjlink/GJ-journal.html>

<<http://www.gk-p.jp/gjlink/GJ-journal.html>>

<Contests>

【一地域別特集一】

オリジナル特集記事

1. 下水道展'18北九州 ～九州ブロック」の取組紹介～
2. 九州GJがオススメする下水道展8つの見どころ
3. オール九州・下水道コーナー

◆下水道女子が伝える下水道の魅力

私の下水道 九種 GJ 編一

福岡県北九州市 緒方 恵里奈さん

福岡県 松原 ゆうかさん

福岡県福岡市 田知行 さなえさん

福岡県久留米市 石井 里実さん

佐賀県佐賀市 前田 恵美さん、藤田 千恵子さん

長崎県長崎市 兼頭 彩季さん

熊本県熊本市 成田 潤子さん

熊本県玉名市 増永 美由紀さん

大分県大分市 重松 佳奈さん

宮崎県宮崎市 長崎 菜々美さん

鹿児島県鹿児島市 西間庭 春奈さん

沖縄県 渡慶次 麻衣子さん

沖縄県 那覇市 新垣 可南子さん

※GJリンクとは※

下水道広報プラットフォーム(GKP)内に女性同士の繋がりを支援する場として誕生。

単に繋がるだけでなく、様々な企画を通して情報発信や企画・運営などのスキルアップを図る取組みも始まっています。

ホームページ : <http://www.gk-p.jp/gjlink/GJ-Link.html>

<<http://www.gk-p.jp/gjlink/GJ-Link.html>>

=====

【参考情報】

◆PPP新戦略：汚泥処理から全体最適を提案 月島機械、赤尾英明 PPP事業推進室長に聞く<Web ジャーナル MizuDesign>

<https://mizudesignjournal.com/infra/1303.html>

◆商品開発×水のストーリー「バスクリン」 風呂の残り湯を洗濯に使うために繰り返した試験 <Web ジャーナル MizuDesign>

<https://mizudesignjournal.com/management/1292.html>

◆豪雨対策で貯留池整備 奈良県、今後5年で「内水」を防止 [奈良県] <7/9 日本経済新聞>

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ03276942009072018LKA000/>

◆ハザードマップと重なった浸水域、それでも犠牲者防げず [岡山県倉敷市] <7/10 朝日新聞>

<https://www.asahi.com/articles/ASL7956K2L79PTIL02N.html>

◆断水、トイレどうする 身近なものでオムツも作れる <7/11 朝日新聞>

<https://www.asahi.com/articles/ASL7B6TKFL7BPTIL054.html>

◆糸満市の下水処理場でバイオガス発電、FIT 売電し排熱を製塩に活用 [沖縄県糸満市] <7/13 日経 BP>

<http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/PPP/news/071000800/>

◆久留米市の内水氾濫「対応の検証を」 知事 [福岡県] <7/13 西日本新聞>

https://www.nishinippon.co.jp/nnp/f_sougou/article/432463/

発行元：公益財団法人 日本下水道新技術機構 企画部
〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F
TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<https://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから → jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信停止はこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/member-mag-unsubscribe>

○ニューズレターはこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/newsletter/20170426/index.html>
